

2025 年 10 月 31 日

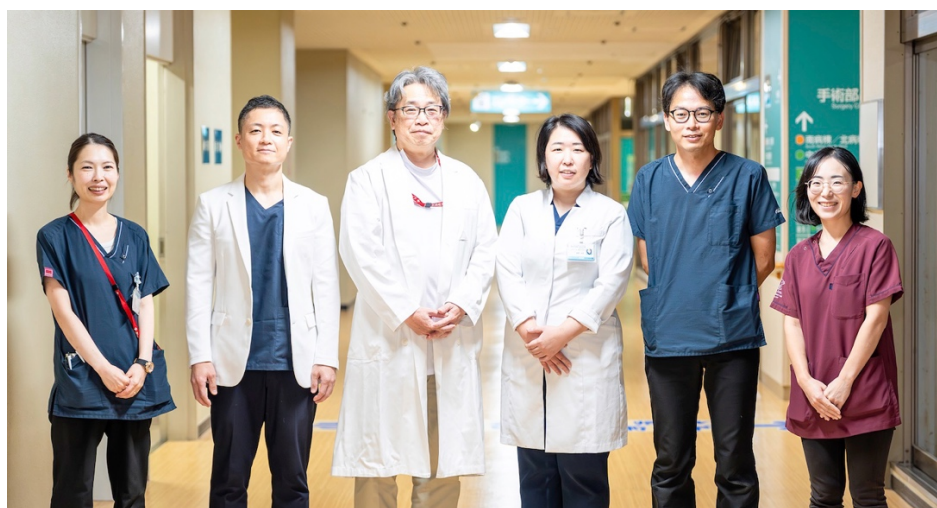
報道関係者 各位

群馬大学医学部附属病院に

「聴覚インプラント・補聴器先端医療センター」が新設されます

～加齢性難聴の増加に対応し、補聴器から人工聴覚器まで一体化した診療体制を構築～

群馬大学医学部附属病院（群馬県前橋市）は、2025 年 11 月（予定）に「聴覚インプラント・補聴器先端医療センター」を開設します。



加齢性難聴の増加に伴い拡大が見込まれる補聴器・人工聴覚器医療に対し、適応評価～手術～術後リハビリテーション／補聴器フィッティングを一气通貫で提供し、県内外の医療機関と連携して質の高い医療を提供します。耳鼻咽喉科の診療実績・教育基盤を活かしたセンター運営とし、地域の難聴診療の底上げに貢献します。

「人工聴覚器（または聴覚インプラント）」とは……

聞こえを助ける体内埋め込み型の医療機器の総称です。主に以下の 3 種類があります。

- ①人工内耳（聴神経を直接刺激）、
- ②人工中耳（耳の奥を振動させて伝える）、
- ③骨導インプラント（骨の振動で内耳に届ける）

1. 本件のポイント

- 2025 年 11 月に新設予定。耳鼻咽喉科内の横断センターとして、補聴器医療から人工内耳・人工中耳・骨導インプラントまでを包括。

- 県内で人工聴覚器手術の施設基準を満たす拠点は2025年11月時点で群馬大学医学部附属病院のみ。県外を含めた広域からの紹介患者の受け入れ体制を整備。
- センター名に「補聴器」を冠し、精神科・神経内科・（老年）内科など高齢者診療の多い診療科や他県を含む地域医療機関だけでなく、補聴器販売店などからも認知されやすい窓口を構築。
- 補聴器を使っても効果が不良な例、装用自体ができない例、中耳奇形例、超高齢者（90歳超を含む）など、従来介入が難しかった症例も適応を厳密に評価し、介入可否を判断。
- 当院耳鼻咽喉科が従来行ってきた小児難聴・人工聴覚器外来等の診療・教育実績を土台に、診療と人材育成・研究を一体的に推進。

2. 本件の概要

背景

わが国の高齢化に伴い加齢性難聴は確実に増加しており、補聴器および各種人工聴覚器へのニーズが拡大しています。当院は県内において人工聴覚器手術の施設基準を満たす唯一の拠点として、これまでの専門外来の経験を基に、評価・手術・補聴器導入/調整・聴覚リハビリテーション・ハビリテーション※を一体化したセンターを整備します。

※ハビリテーション…生まれつきの障害や幼い頃から持つ障害を持つ方々が、現存する能力を活かしてさらに成長・発達できるように支援する治療。一方、リハビリテーションは、病気やけがなどで失われた機能を元の状態へと回復させるための治療を指す。

○センターの役割

- **適応評価の標準化**：補聴器装用下の語音明瞭度や聴取困難の評価、画像検査・電気生理検査等を用いた人工聴覚器の適応判定。
- **包括的治療**：補聴器フィッティングの最適化（装用支援・使いこなし支援を含む）および人工内耳・人工中耳・骨導インプラント手術と術後プログラム。
- **患者・家族支援**：高齢者や補聴器に不安を抱える方、「補聴器を購入したが効果不十分／使いこなせない」といったケースにも医療的評価と支援を提供。

○連携体制の強化

- **地域連携**：県内外の耳鼻咽喉科に加え、精神科・神経内科・（老年）内科など高齢者診療の多い診療科へ積極的に周知し、患者紹介しやすいルートを整備。
- **紹介対象（医療機関の皆さまへ）**
 - 補聴器装用下でも聴き取りの困難が強い例
 - 装用不快感・ハウリングなどで補聴器継続が難しい例
 - 伝音難聴や耳小骨病変が疑われる例（人工中耳・骨導インプラント。軟骨伝導補聴器適応評価）
 - 高度～重度感音難聴で人工内耳を含む手術適応評価が必要な例
 - 超高齢者（90歳超を含む）であっても年齢のみを理由に介入を制限しない方針で評価

- **情報発信**：センター名に「補聴器」を含めることで、専門外診療科等からも難聴患者を紹介しやすい明確なメッセージを発信。広域からの患者受け入れに資する体制も構築。

○教育・研究活動の推進

当院耳鼻咽喉科では、従来より小児難聴・人工聴覚器外来を運営し、手術や（リ）ハビリテーションを通じた教育・診療体制を整備してきました。本センター開設により、診療・教育・研究の循環をさらに強化し、地域の難聴診療の底上げを図ります。

○今後の展望

- **広域連携の強化**：県内唯一の人工聴覚器手術拠点として、周辺県を含む医療機関とのネットワークを拡充。
- **標準化と質保証**：適応判断、手術、術後フォロー、補聴器適合の診療プロトコルを標準化し、治療成績の可視化と医療安全体制を継続的に評価。
- **患者利便性の向上**：紹介枠の確保、説明資料の共通化、装用支援プログラムの充実により、初診から術後・装用安定化までのシームレスなケアを実現。

3. 関連リンク

群馬大学医学部附属病院

<https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>

群馬大学 大学院医学系研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

<https://jibika.med.gunma-u.ac.jp/>

【本件に関するお問合せ先】

群馬大学医学部附属病院 聴覚インプラント・補聴器先端医療センター
同大学院医学系研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 准教授
茂木 雅臣（もてぎ まさおみ）

【取材に関するお問合せ先】

群馬大学昭和地区事務部総務課広報・保健学庶務係
TEL：027-220-7895 FAX：027-220-7720
E-MAIL：m-koho@ml.gunma-u.ac.jp